第2章 基本目標と望ましい環境像

この章では、第2次計画の基本目標と望ましい環境像、環境目標を示しています。

1 基本目標と望ましい環境像

第2次計画では、環境基本条例を踏まえて基本目標として、「自然とふれあい、安心して暮らせるまち みずほ」を掲げ、基本目標を具体化していくため、5つの望ましい環境像を設定します。

<基本目標>

自然とふれあい、安心して暮らせるまち みずほ

<望ましい環境像>

- ① 地域から地球環境の保全に貢献し、次の世代に地球を引き継ぐまち
- ② 狭山丘陵をはじめとする豊かな緑とさまざまな生き物を守り、育て、人と自然が共生するまち
- ③ きれいな空気・水、清らかな土地を大切にし、みんなが安心して暮らすことのできるまち
- ④ 歴史と文化を大切にし、みんなが快適に暮らせるまち
- ⑤ みんなで考え、みんなで行動するまち

2 望ましい環境像と環境目標

5つの望ましい環境像について、平成40（2028）年度を目標年度とする環境目標を掲げます。

望ましい環境像①

地域から地球環境の保全に貢献し、次の世代に地球を引き継ぐまち

気候変動の原因とされる地球温暖化への対応として、地域での省エネルギーや再生可能エネルギーへの転換、3R（リデュース・リユース・リサイクル）の取組が浸透する低炭素社会・循環型社会を目指します。同時に、気候変動の深刻化に伴う地域への影響に向き合い、被害を回避・軽減していく“適応策”の視点を取り入れていくことで、次の世代を見据えた町民の健康・安全、暮らしの基盤を確保していきます。

<環境目標>

指標	基準年（H29年度）	目標（H40年度）
町の事務事業に伴う温室効果ガス排出量	3,498,598kg-CO ₂	2,476,000kg-CO ₂ (基準年度 H27〔2015〕 年度比 31.0%削減※)
町民1人当りのごみの排出量	950 g	822 g
総資源化率	31.0%	39.0%

※ 「瑞穂町第二次地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」（平成29年2月）では、削減目標「平成27（2015）年度比で平成42（2030）年度までに35%削減」を掲げています。

望ましい環境像②

狭山丘陵をはじめとする豊かな緑とさまざまな生き物を守り、育て、人と自然が共生するまち

狭山丘陵をはじめとした緑豊かな自然環境は、次世代や後世に継承すべき町民共有の財産といえます。自然の恵みを活用し、地域の活性化につなげていく自然共生社会の実現を目指します。

< 環境目標 >

指標	基準年 (H29 年度)	目標 (H40 年度)
保存樹木数 (累計)	33 本	40 本
都市公園などの管理面積 (累計)	180,698.02 m ²	209,100 m ²
生垣緑化助成に基づく生垣の総延長 (累計)	808.7m	1,000m

望ましい環境像③

きれいな空気・水、清らかな土地を大切にし、みんなが安心して暮らすことのできるまち

日常生活や事業活動に伴って発生する環境への負荷を低減し、町民の健康を守り、安全で安心できる生活環境を確保していきます。

< 環境目標 >

指標	基準年 (H29 年度)	目標 (H40 年度)
環境基準の達成 (大気汚染)	環境基準値以内	環境基準値の維持
下水道普及率	97.6%	100.0%
環境基準の達成 (河川水質汚濁)	一部項目 (大腸菌群数等) で環境基準値超過	環境基準値の達成

望ましい環境像④

歴史と文化を大切にし、みんなが快適に暮らせるまち

瑞穂町の自然的景観と歴史的景観が調和し、潤いを感じる景観を創り出すことを目指します。また、環境美化への関心を高めるため、ボランティアによるごみ拾いなどの地域活動を広げ、人にやさしく、憩いのあるまちを目指します。

＜環境目標＞

指標	現状（H29年度）	目標（H40年度）
全町一斉清掃の参加人数	5,356人	6,000人

望ましい環境像⑤

みんなで考え、みんなで行動するまち

町民や事業者による自発的・積極的な環境保全行動の実践、地域の環境づくりへの参加を支え、町民・事業者・地域・各種団体・町が連携・協働し、地域の環境保全活動を展開する協働型社会の実現を目指します。

＜環境目標＞

指標	基準年（H29年度）	目標（H40年度）
ふるさと学習「みずほ学」自然に関する学習支援（講師派遣実施数）	9回	10回
狭山丘陵における自然体験の機会の参加者数（瑞穂に棲む動植物や自然に関する講演会・企画展の実施状況〔実施数〕）	8回	10回

第1章
計画の基本的事項

第2章
基本目標と望ましい環境像

第3章
望ましい環境像を実現するための取組

第4章
重点プロジェクト

第5章
環境配慮行動・指針

第6章
計画の推進体制と進行管理